

自治会・町内会を補完する地域活動に関する調査研究 - 庄戸元気づくり実行委員会を事例として -

山家・上野研究室 後藤伸太郎

研究概要

高度経済成長時代から現在に至り、大都市近郊の郊外住宅地では、住民の高齢化やインフラの老朽化が進み、また生活者のライフスタイルの多様化などによって、地域における担い手不足やコミュニティの希薄化などの課題を内包するようになった。ここで対象地区である庄戸地区で活動している「庄戸元気づくり実行委員会」を事例とし、郊外住宅地において「自治会・町内会を補完する地域活動」について明らかにした。

研究目的

「庄戸元気づくり実行委員会」の活動を事例として、郊外住宅地の問題を抱えつつも住民主体で自治会・町内会を補完する地域活動について解明することを目的とする。

研究成果

本研究では、当該委員会の活動である「庄戸サロン」の運営者・利用者を対象にアンケート調査を行った。調査は2017年10月27日（金）～2017年11月29日（水）の毎週（水）（金）曜日に実施し、活動に参加された利用者及び運営者を対象とした。

調査内容は、①利用者・運営者の属性について、②庄戸サロンについて（利用者のみ）、③サロン運営について（運営者のみ）、④庄戸地区について（利用者・運営者）である。

主な調査結果について説明する。まず、「庄戸地区にどんな機能・場所が欲しいか」について以下の通りである（図1）。数字は回答数を示している。

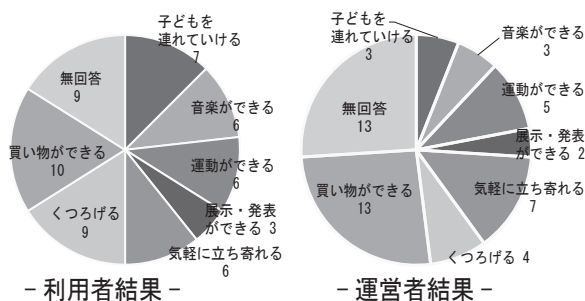


図1 庄戸地区に求める機能・場所

利用者・運営者共に「買い物ができる」「気軽に立ち

寄れる」が高いことがわかった。庄戸地区には徒歩で気軽に買い物に行ける環境がなく、またカフェなどの室内で立ち寄り、時間を過ごす場もないためだと考えられる。

次に、「庄戸サロンはあなたにとってどんな場所か。」については以下の通りである（図2）。

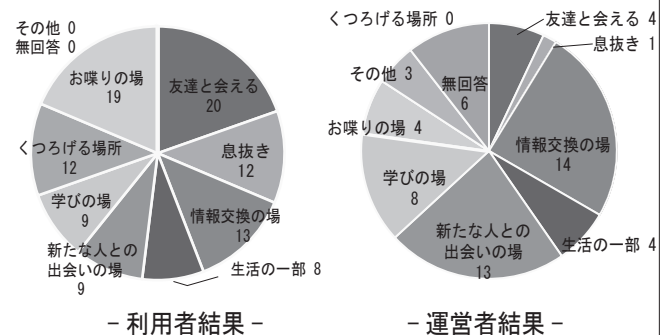


図2 庄戸サロンはどんな場所か

利用者・運営者共に「情報交換の場」が高いことがわかった。調査実施中も、利用者の中で保育園や育児についての意見を交換していた他、運営者に助言を求める場面を見ることができた。また、利用者の「友達と会える」運営者の「新たな人との出会いの場」より人との出会いの場としても評価されていることが伺える。

まとめ

既存の自治会・町内会が担いきれない地域課題を、地域住民の有志から地域課題を見出し、活動する団体が存在することは、高齢者や子育て世代の方など、郊外住宅地に住む人たちの生活を支えるものになっていることがわかった。また、郊外住宅地が成り立つうえで、庄戸元気づくり実行委員会のように「テーマ型」で活動することは、住民の安心・充実を生み出す地域社会に繋がると考える。

また、一つのことを多くの人のご協力を頂きながら、論文として書き上げることは、とても良い経験になった。特に文章を書くことが苦手でも論文で成長することができた。指導してくださった山家・上野先生に感謝したい。